

## 今ツバルに何が起きているか

### － 地球温暖化最前線の現状 －

神保 哲生

(ビデオジャーナリスト)

## What's Happening in Tuvalu － Realities of Global Warming －

JIMBO Tetsuo

(Video Journalist)

### Abstract

Tuvalu is located in the middle of the South Pacific. This country is severely affected by global warming. The situation was presented by video footage of Tuvalu.

南太平洋の真ん中にツバルという国がある。人口1万人あまりの小さな国だが、豊かな海の恵みに囲まれて、平和な自給自足の生活を営む、友好的な人々が住む国だ。このツバルが今、海に沈み始めている。もともと平均標高が2メートルにも満たない低い国土だったが、過去10年ほど、加速的な海岸浸食と、海水が地下水を通じて内陸に噴き出してくる洪水に悩まされるようになった。

これは地球温暖化に起因する海面上昇の影響である可能性が高い。地球の気温があがることで海水の温度も上昇し、それが海水の体積を増やしている。もちろん、氷河や極地の氷床の溶解も影響している可能性がある。

ツバルの国土全体が丸ごと海に沈むには、まだまだ何十年、いやもしかしたら何百年もかかるかもしれない。しかし、ツバルの人たちはツバルがそう遠くない将来、人間が住めない土地になることを知っている。既にツバルの人たちの生活基盤は根底から奪われ始めているからだ。

地下水を通じて内陸に浸入した海の塩水が、自給自足を営むために不可欠なツバルの畑に入り込み、主食のプラカ芋を始めとする作物が収穫できなくなっている。根菜は塩につかると根が腐ってしまうからだ。

自給自足が維持できなくなれば、食べ物は買うしかない。しかし、これといって産業のないツバルでは、現金収入を得る手段が無い。そのためツバル人の多くが、現金収入を得るために、海外に出稼ぎに出なければならなくなっている。

もはやツバルはこのままでは生き残れない。そう判断したツバル政府は2001年から、海外への移住計画を実行に移し始めた。国を捨てても何とか海外でツバル人とツバル文化を残そうという、生き残りをかけたぎりぎりの選択だった。手始めにニュージーランドに毎年75人が移住している。75人といっても人口1万余のツバルにとっての75人は日

本のほぼ100万人に相当する。しかも、働き盛りで英語のできる有能なツバル人が優先的に国を去っていく。このままではツバルは国土の沈没を待たずして、沈んでしまう。

生き残り計画を実践する一方でツバル政府は、自分たちの運命を左右していると思われる地球温暖化の問題でも積極的な働きかけを始めた。ツバルの首相は温暖化の国際会議には必ず顔を見せ、世界に向けて地球温暖化を阻止することの重要性を訴えている。

もしかしたらもう人類はツバルを救うことは出来ないかもしれない。今ただちに抜本的な温室効果ガスの削減を行ったとしても、既にツバルを救うには手遅れの可能性が高い。しかし、人類にとってツバルは炭坑のカナリアなのかもしれない。炭鉱内にガスが出たことを察知するために、あえて抵抗力の弱いカナリアを連れて坑内に入る。カナリアが死んだのを見て急いで炭坑を出れば、より抵抗力のある人間は何とか生きられる。ツバルが、今苦しんでいる。それを単なる対岸の火事として見過ごすか、それともそれを炭坑のカナリアと見るか。今先進国に住む私たちの常識が問われている。しかも、地球温暖化を起こしているのは、他でもない、先進国に住む私たちなのだ。